

1



< 5月号企画 >

いとこお母さん

私は「自慢じゃないけどお」と言う言葉が嫌いです。
滅多にないですが、そういうときは、はっきり「自慢です!」と言います。
今回は、みんなのご自慢グッズ、大公開!

WUKA ♡

お役立ちグッズや可愛いもの、うーむ。。。
見当たりませんが、私の投稿は、じゃーんっ!
この観音様です。
じんじんの母上の白檀の手彫りの持仏に一目惚れしていた私は自分の仏様が欲しい「がるるるるう～」とずっと思っていました。
母の持仏は、台湾の仏師に依頼したものでした。
いろいろな場所に小さな観音様を求めて彷徨ったのですが、胸がキュンとなるような観音様に出会えないまま月日は過ぎて。。。
持仏なんて、10年いや20年早いよ～と諦めていた頃ちょうどペナンに旅行へ行くことに。
たくさんお寺巡りをしましたが、ある中国系の仏院の土産物屋さんでこの観音様に会いました。
我が家に来たかどうかは?ですが、
なんとか来日されて以来、リビングのテレビボードの上に鎮座なさっております。
仏像のお顔は、本当に様々で同じものはひとつとしてありません。
やはり、日本人なので中国系のお顔に惹かれちゃう私です。



カレコ♡

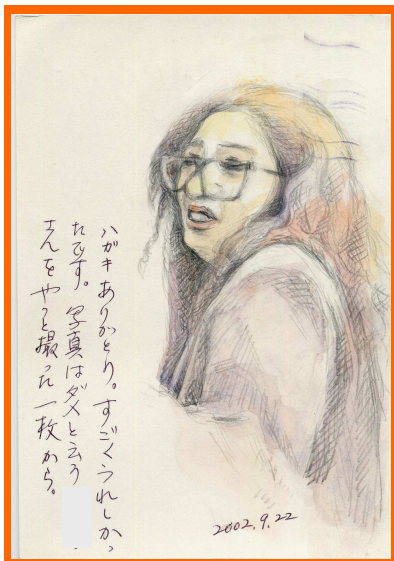
誰かに言いたくて言いたくて。「こんないいもの持ってるのよ」って。
それは友人が大事な時間を使って描いてくれた葉書の数々。

友人Mさんの愛猫びいちゃん。

「いろいろなポーズを描きたいけれど
繊細すぎる動きを切り取るのは難しい」
そんなふうによく言ってた。これはMさん
がびいちゃんを描いた初期の一枚。



Mさんとは好きなものがよく似てる。これは大好きな
アンリ・ルソーの絵を描いてくれたもの。さかさまる
ソーはかえって雰囲気出てるし、「アンレ・ウツソー」
もきいています。(^^♪



Hさんがを描いてくれたわ
たし。Hさんの過去はどう
やら青林堂で漫画を描いて
いたらしい。こんなふう
に綺麗に描いてもらえてうれ
しい(*^_^*)



もっともっと上手にいろんな絵が描けたなら、わたしも誰かに絵を描いて届けてみたい。

WAZAWA.V ☆

えっ！自慢の一物ですか？

そんなあ・・・、恥ずかしい・・・

そりゃあ僕のはそり具合といい、色といい、大きさといい
弓削の道鏡、顔負けの
膝かと思まごうその偉容・・・

えっ?! 違う? 物じゃなく、品? イチモツじゃなくてヒトシナね。

あ、そう。なあんだ・・・なんか変だと思ったヨ。

でも、「自慢の一品」と言われてもなあ・・・

僕はケチというか、エコロジストというか、経済的余裕がないというか、比較的安い物を徹底して使うことを身上としてまして、あまり人様に自慢できるような物、いや品か、は持ってないんですよね。ともかくボロボロになるまで使うことにしているので、いわば製品の耐久テストを代わりにやっているようなもの。メーカーはこういうユーザーからの情報を集めるべきだよなあ。

というようなわけで今回はその耐久テストの結果を、いつ、何年前に買ったのかが明確な物(品)でご披露したいと思います。

1) 1991年に買ったTシャツ。

1991年6月に買いました。どうして月まで特定できるかというと、1年半のアメリカ生活の一番初めの頃に買った物(品)だからです。所はカーメルの水族館で買い求めたもの(品)。勿論Tシャツとして夏に着用していましたが、少しくたびれてからは冬に下着として着用とかなりヘビーに使い込んでいます。襟の回りが綻んできて、もうここら辺りが限界かな、と。

今年の冬を以ってお役ご免。今年の夏からは雑巾として活躍してもらう予定です。

Tシャツ：寿命=15年。主要な死因=襟の回りの綻び。
(他のTシャツもほとんど同じ現象です。)



2) 1977年に買ったスーツケース。

新婚旅行用に使いました。新婚旅行はロンドン・パリへ。というかどうしてもロンドンとパリに行ってみたくて長期休暇が欲しいから結婚したようなもの、なんて言うと女房に怒られるかな？でも当時円は安くてそれまでの貯金を全部はたいて二人分の旅費を工面した。ロンドンではイギリス人らしき少女達四、五名のグループから道を聞

かれたました。夜だったので向うがスケ番みたいなのだったらどうしよう、とちょっと怖かった。でも案ずることもなく、「ピカデリーサーカスはどう行ったらいいのかわかるか」。ちょうどその方面から歩いてきた時だったので、ちゃんと道順を教えられたのがいい思い出になっています。これは今年春、子供が海外旅行をする時に利用を拒否されました。ローラーにガタが来ていて使えない、と。まあベランダに置く物置としてなら使えるだろうと、それがこのスーツケースの第二の人生です。

スーツケース：寿命＝約30年。主要な死因＝ローラーのゴム破損。



3) 1974年に買ったZライト。

会社に入って高槻の寮の個室をあてがわれました。机やワードローブなど一応の家具は揃っているけど、手元の灯りが無い。本も読めないんじゃない仕様が無い、と入寮初日に近所の電気屋さんで買い求めました。当面の急場しのぎだから、という事でその店で一番安い物（品）で間に合わせた。

それが今でも現役で活躍しています。

「National」と書かれたエンブレムは糊が剥がれて取れたり、スイッチが若干接触が悪くなったかな、とは思いますが、まだまだ現役。これからも頑張ってもらおうつもりです。

Zライト：寿命＝不明。



4) 1970年に買った〇〇

これは正式には何と呼ぶのでしょうか。ある人は「パンチ」と呼ぶ。「ホーラー」と呼ぶ人もいました。穴 (hole) に"er"を付けて「穴をあけるもの」でしょうか。僕は「穴あけ機」と呼んでいます。

大学に入って下宿生活を始めたわけですが、東京は知らないし怖いし、仕送りも十分にあるわけでもなし、楽しみは実家や友人に手紙を書いて返事を読む事。手紙は柔らかな和紙にカーボン紙でコピーを取りながらボールペンで書きました。

自分が出した手紙と返事を綴じるために買い求めたのがこの「穴あけ機」。

当時はそんなにシャレたファイルもなくて、少し厚手の紙（馬糞紙？）の間に一本の紐で綴じた記憶があります。

「穴あけ機」は今も現役でいるのに、肝心のその書簡集がどうしても見つからない。皮肉なものです。

穴あけ機：寿命＝不明。



5) 1970年、1974年に買った万年筆

大学に入ってどうしても欲しいものが一つありました。

それは万年筆。それもモンブランでなければならない。実は僕が高校生の頃、先に大学生活を始めた従兄がよく手紙をくれました。そこには「これはモンブランで書いている。こんなに書き味の良い筆記具は出会ったことがない」と自慢気に書かれてありました。僕は悪筆だけど従兄は達筆。なんだかモンブランで書けば綺麗な字が書けるのではないかという錯覚すらあったのです。そんな時大学の生協で見つけたのが写真左のモンブラン。当時毎月の仕送りが1万5000円。その中から下宿代の8000円を出し、食費も出していたなか、確か8000円を投じてこのモンブランを買い求めました。手紙の中味は和紙にボールペンで書いたけど、宛名書きは必ずこのモンブランを使いました。

写真右は1974年に買い求めたペリカン。

大学時代に知り合った友人がやはり万年筆には一家言を持っていて、盛んにペリカンを褒める。実際に書いてみるとなかなかいい味。会社に入ったのを契機に買った物（品）です。

モンブランはスポイト機能が壊れて今は現役を退いています。ペリカンは今も現役。とは言っても日記も手紙もパソコンに主役を奪われて、万年筆の出番はほとんどなくなってきています。

万年筆：寿命＝約30年？



YUKO ♡

猫グッズ集めています。


いっぱい有りすぎて転居してからはダンボールの中に入ったままになっていますが・・・
最初に飼ったのがシャムハーフの「風太」だったので自然とシャム猫グッズが集まってきました。

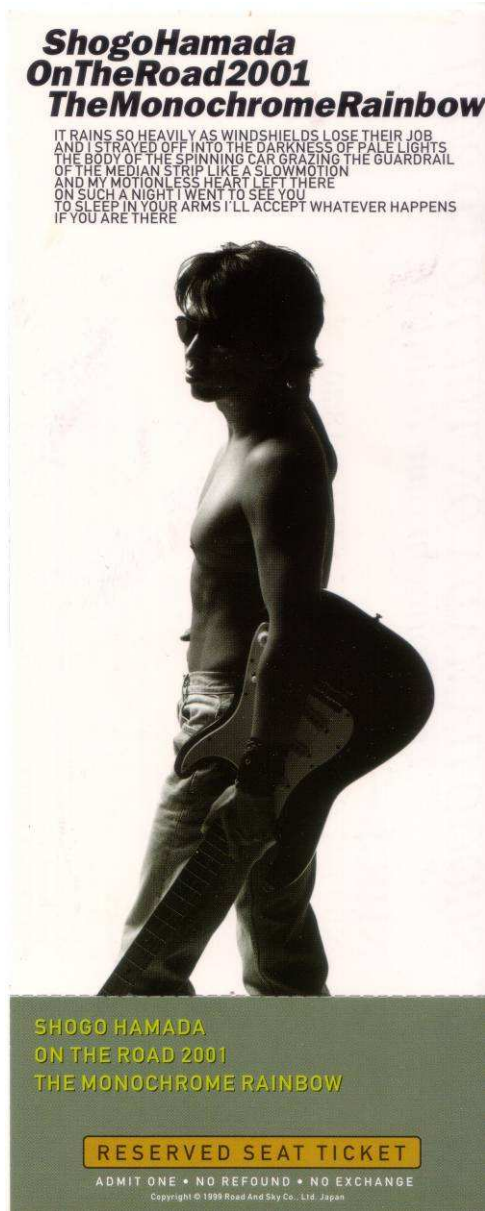
中でも写真のシャムちゃんが一番のお気に入り。
お友達からの誕生日のプレゼントだったのですが
お腹の所に電池が入っていて
背中をなでると、本当に猫が息をしているみたいに
柔らかな動きで動きます。すごく可愛いの。



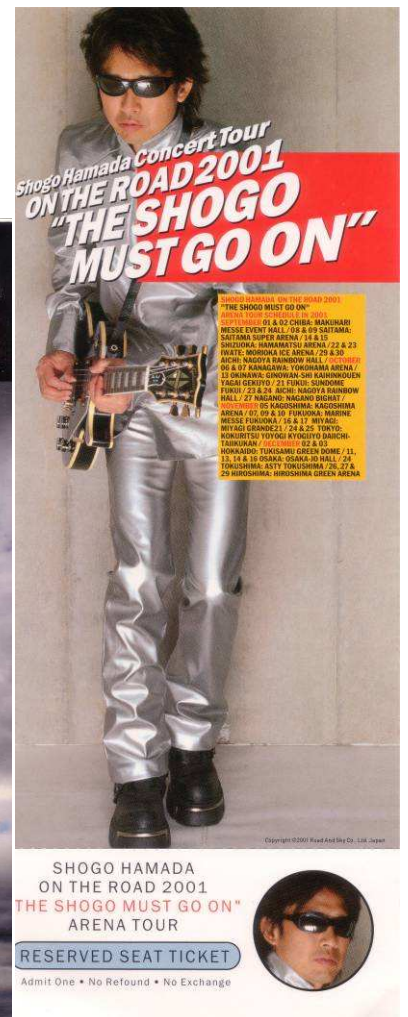
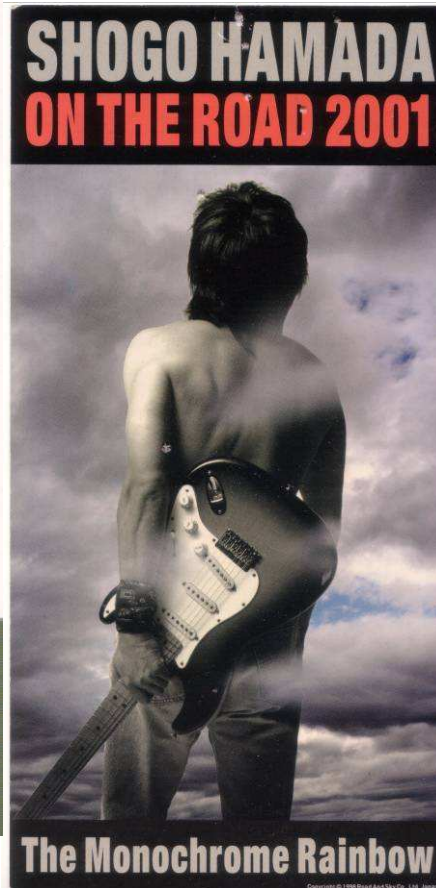
もう一枚はジグソーパズルで作った村松まことの「シャム猫」。
以前は玄関に、今は私の部屋に飾っています。
おとぼけ顔が家の「風太」に似ています。

TICA

浜省ファン歴がいちばん浅いワタクシが、yukoさん、由佳ちゃん先輩を差しおいてこんな品物を失礼します。どーしてもCACCOがやれやれっつーもんだから（もおこうなりや人のせい） 





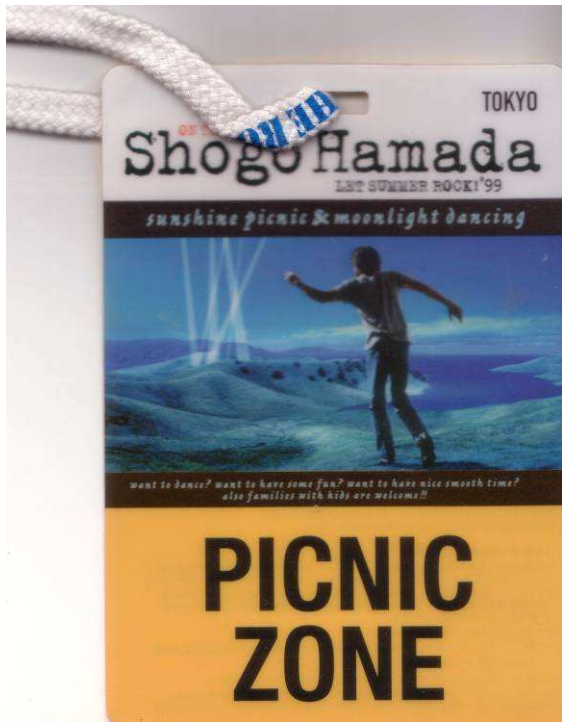
浜省のコンサートに行くと、配られるのがこのチケット。そのまま、写真たてに飾ってあるのもあります。



●この、座席の予定はこれより9月の中旬までのに本場はご迷惑下さい。
●演奏中に場内を移動して着席することはできません。開演後にご来場されたお客様は、ロビーの係員の指示に従ってご入場ください。
●以上の事項をご了承のうえお買い求め下さい。

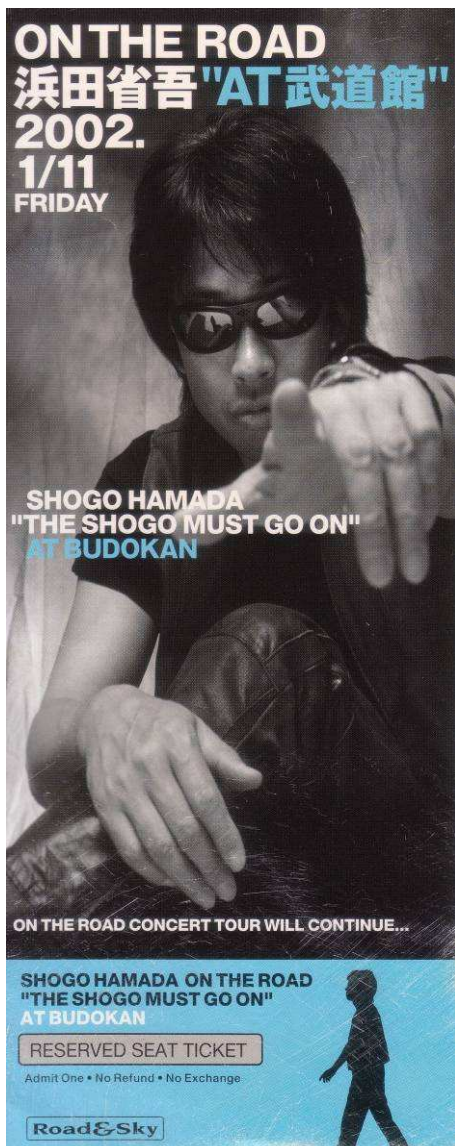
1階 7列 32番

 神奈川県民ホールの子チケットの裏面。
今までで一番いい席だった。
それも二日続けて同じ席だった 



プラスチック製で首にかけるタイプのチケット。立川記念公園の野外コンサートは、前日が大雨で延期。延期自体が野外では信じられないことだとミスチルファンに言われた。それでも次の日だって足元がぐちゃぐちゃで大変だったんだからっ。でも一番の大変は、身長3mのあたしにしても、スクリーンさえも見えないことでした。さすが「ピクニックゾーン」👉

ファンクラブオンリーのコンサート。👉
 どちらもどきどきしながら一人で行った。
 そのうえ、一度は由佳ちゃんの名前で
 行かせていただきましたの。おほほ。👉



4年間続いた ON THE ROAD 2001 のツアーの最終日、2002年1月11日だけのチケット。最後の曲を歌い終わったあとに、客席に向けて写真を撮る真似をして胸にしまったよって仕草をした浜省が印象的だった。

DVDでこの日のステージをみると、このあとに逢ったんだなあって、未だにすごくヘンな気分になる。



3年8ヶ月ぶりのツアーが9月から始まる。
 浜田さ〜ん、待っててねえ！逢いに行くよ〜！
 しかし先行発売で敗北した。どーする、オレっ！！

USAO ☆

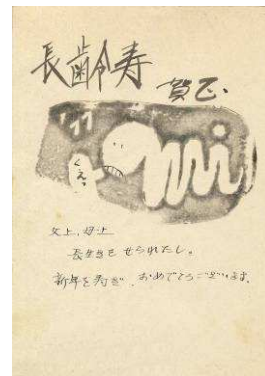
自慢の一品・・・かあ。ん～ん！！ 森高千里はもうやっちゃったしなあ。これと言うお宝は持っていないなあ。こんな時にはもっと趣味に打ち込んでおけば良かったなあをつくづく思うよ。

例えば、釣りだったら獲物の魚拓を採っておくとか、アマチュア無線だったらアワードの葉書を取っておき、最も遠い海外のものを見せるとか、物を集めておくのが苦手なうさおはこんな企画は苦手だぞ！そういえば、年賀状が残っていたなあ、そうだCACCOもそうしろって言っているし。!(^^)! 素晴らしいなあ。ヒット！ヒット！

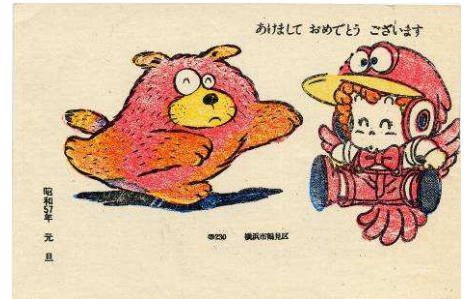
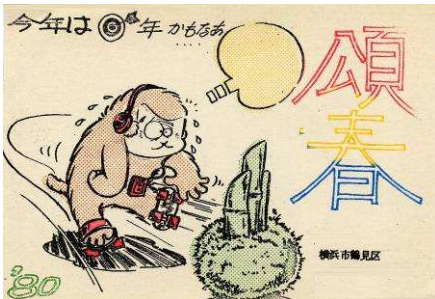
てな訳で、自分の手書きの年賀状をお見せすることにしちゃいます。(つて、なんて身勝手な企画への対応でありましょうか・・・)



新婚当初のガリ版刷りの一品であります。



この辺はなんだか手抜きが見え見えます。

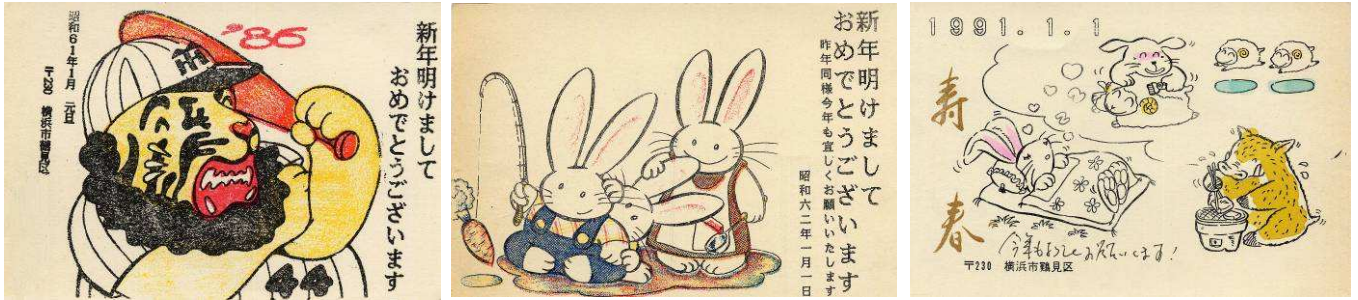


プリントごっこを買ったんですね、何とか4色刷りで済まそうと必死です。



この頃倅が生まれたんですね。もともと犬好きのうさおは戌年の倅に大喜び！お手、お廻り、伏せをしっかりと教えてました。会社のコピー機が葉書もコピーできると発見！残業と称して一人でこっそり夜遅くに、悪魔の顔つきになりせせとコピーしていましたとさ。

色付けはカラーインクを使っています。イラストの仕事でカラーを頼まれると発色の良さでインクを使っていました。



この辺りの年から絵をスキャナーで取り込み加工しています。でも、なんと言うことでしょう。今までペン入れをしていたのに、鉛筆で書いたラフスケッチを取り込み、パソコン上でペンタッチを出しています。詐欺のようです。



仕事が忙しくなったのか、うさおの手抜きの本性が現れたのか、善いじゃん、何とか形になっていたりやあね！って根性もろ見えてきた時代でもあります。



ライ隊員が来たんですね。家族の中にすっかり入り込んでいるのが判ります。



郵政省もインクジェット用の葉書を発売し、我が家も縁無し印刷が可能なプリンターを買いました。



お粗末までございました。ペッコフ。